

吉野源流川物語

吉野川
瓶ヶ森から湧き出て、白猪谷を最源流とする。四国山地の南側を流れ大豊町で四国山地を横断。徳島平野を形づく。紀伊水道へ注ぐ。流路延長194km。日本三大暴れ川「四国三郎」の異名を持つ。

厳冬期、木々は冬の姿で春を待つ。春になると木には年輪という命の輪が刻まれる。

寺川
吉野川最奥の集落。標高800m。本川郷風土記によると「ここに番所あり。伊予西条への出入の道口なり」とある。境目番所が置かれ、シラサキへの基地として重要な拠点とされてきた。

道順
長沢から越夏門を通り寺川へ。寺川のお宮、白髪神社を右に上がり集落を迂回して白猪谷のメダカ養殖場へ下り、そのまま源流橋を渡ったところに登山口案内板がある。(正司くんありがとう)

瓶ヶ森と西黒森のそれぞれの沢が合流した地点が源流点。

源流モニュメントに原生林が映る

吉野川源流の森は水源の森百選に選定されている。(林野庁)

源流
ここから吉野川の水は流れ出す
1997.8.22竣工
題字 本川村長山中学 制作 井上俊作

天の水は森をつくり
森は川をつくる。
川は流れ流れて
万物の命を育む。

見上げると瓶ヶ森が見える

前を行った人が印してくれたピンテープのあけ方をいじってあげる。後から来る人への恩送り。ピンテープを巻いていく

水青く、水清く、緑を
しぼりとったような
うまれたての清流は
流れが美しい。

谷ぞいにカツラが見えてくる。

渡渉
水がたがい時は
どぶたの方が
安全や。

五軒小屋と呼ばれ
木地師の居住地
であると伝わる。

木地師の墓
墓石らしいものが
数基見つかる。

「モニュメントまで60分」
古い標識がある。

深い山からあふれ出てきた
水は樹々の緑を映し
木々を映し、谷間を
くぐって流れていく。

人生は不思議で
別れてまた巡り逢う。
この水と木々が
また出逢うことが
できるかな。

木の橋やはしが連続する。
磨ったり、もろくなったりして
いるかもしれない。慎重に。

年の始めに大河の
源流点を決める。
2024.1.5

木地師
山々を移動しながら、トナリヤキなどお祭り
のワロで箸や鉢、盆などを
製作する漂泊の民。
ワロを発明した惟喬
親王を祖神とし全国
どこかの山で木を伐って
よいとある伝説がある。
土佐にも木地師の足跡が
数々残っている。

白猪谷は人里離れた秘境。
谷の奥には室町時代末期のものといわれる「作小屋」(主田屋)の跡が確認されており、通称「五軒小屋」の古基も調査されている。また関東からの落人「玄蕃」と「峽長」という山伏が入っていたとも言われる。さらに伊予からの難民が「小屋掛け」をしていたという記録も残されている。白猪谷は奥山でありながら、人の住まいに適した土地であったことが考えられる。
(シラサキへ登る登山道の)渡渉点付近には白猪谷銅山の跡が見られる。
土佐の峠風土記より

宝暦二年(1752)土佐藩の山廻り役人春木次郎八郎則により書き残された「寺川郷談」によると、「この郷は西は松山領、北は西条で、四国第一の深山幽谷なり。昔は土佐にもあらず、伊予へも付かず。川水はことごとく阿波へ流れていても阿波にも属さず。山崎越え(シラサキ)の道については「通路は険阻で、十二月になると雪のため西条への通路は絶えて、さびしくなる」と記されている。

滝
このあたりにも木地師が住んでいたと伝わる。

源流点から上流は伏流水

源流点モニュメント

迫力あるトナリヤキ

大カツラ

深い森の中で大きく
古木に出会う。
森の中の時間は人間の
世界みたいに流れるも
んじゃなくて、木地的に
言ったら、森は時間と
蓄えるところ
やなあって感じる。

ちよと遊んで
いこう。

木地師

山々を移動しながら、トナリヤキなどお祭りのワロで箸や鉢、盆などを製作する漂泊の民。ワロを発明した惟喬親王を祖神とし全国どこかの山で木を伐ってよいとある伝説がある。土佐にも木地師の足跡が数々残っている。

白猪谷は人里離れた秘境。谷の奥には室町時代末期のものといわれる「作小屋」(主田屋)の跡が確認されており、通称「五軒小屋」の古基も調査されている。また関東からの落人「玄蕃」と「峽長」という山伏が入っていたとも言われる。さらに伊予からの難民が「小屋掛け」をしていたという記録も残されている。白猪谷は奥山でありながら、人の住まいに適した土地であったことが考えられる。
(シラサキへ登る登山道の)渡渉点付近には白猪谷銅山の跡が見られる。
土佐の峠風土記より

宝暦二年(1752)土佐藩の山廻り役人春木次郎八郎則により書き残された「寺川郷談」によると、「この郷は西は松山領、北は西条で、四国第一の深山幽谷なり。昔は土佐にもあらず、伊予へも付かず。川水はことごとく阿波へ流れていても阿波にも属さず。山崎越え(シラサキ)の道については「通路は険阻で、十二月になると雪のため西条への通路は絶えて、さびしくなる」と記されている。